

犬を愛する
スペシャリスト ⑧



中川畜犬
中川 次太郎 氏

ビッグウッドがお届けする
"山本ユキのあの人に会いたい"
BigWood

文・写真／山本ユキ



常にたくさんの子犬がいる店内

〔秋田犬を世界に〕
だが保存会とJKCの展覧会では審査の内容が違い、それ迄なかった歩様審査では犬が歩かないで苦勞した。リンクにラインを引いて歩かせ方を指導するなど初歩的などころから始めなければならなかった。
しかし、昔からの保存会のメンバーの中にはこれらの新たな試みに反発する人もいた。
秋田犬の魅力を知ってほしいと、力を注いでもその姿に共感するどころか、足を引っ張る人も出てきた。「人の裏切り、妬み」をまざまざと見せつけられ、一時は「犬の業界



角餘呂は、中川畜犬の本ノブだ

をやめよう」と思った事もあったがそんな時、いつも本当に秋田犬を愛するお店のお客さんや奥様などに支えられ秋田犬の繁殖や普及にがんばってきた中川氏。
現在、一番の悩みは「クラブの数が急激に減ってきていること」

〔本物の秋田はどっち？〕
最近、秋田犬の話題が新聞に取り上げられた。「わが国の天然記念物指定、秋田犬の偽者がアメリカにいる？」という記事だが実は、これもれっきとした「アメリカ版秋田犬」だった。
第二次世界大戦後、GHQが日本の秋田犬を持ち帰ったのが始まりであったが、その犬のほとんどが明治時代、闘犬用に改良されたドイツポインターや他犬種との交雑犬タイプで、アメリカではそのままこのタイプが普及してしまっただ。
議論の結果、このアメリカン・アキタは全く別犬種として認定され、

現在の名称は「ブレットジャパニーズドッグ(俗名 アメリカン・アキタ)」となったのだが、今回ご紹介する秋田犬ブリーダーの中川氏も、最初の頃はこの交雑タイプを日本の「秋田犬」と思い込んでいたという。
〔船乗から犬の世界への転身〕
本来、外国航路の船員だった中川氏は、船を降りて喫茶店を経営するはずだった。だが、当時60万円だったというアメリカタイプの中川氏を養育の兄が飼っていたのがきっかけで大屋さんに転身。1965年から秋田犬専門ブリーダーになった。
二度秋田犬を飼ったら、他の犬種



36年間秋田犬一筋の中川氏

クラブとは、全国各地に設けられる単犬種クラブの事だが、規定人数が決まっておりこれに満たないとクラブ主催の展覧会が開催できない。犬質の向上のためにも展覧会は必要不可欠なのだが、今はこれもままならないのが現状だ。
「誰がトップに立つかではなく、秋田犬をもっと世界に広めていくためにも日本のメンバーで一致団結していかなければ…」この想いは裏腹に現在では全国で8クラブ迄減ってしまった。
ヨーロッパでは秋田犬の人氣が高く中川氏も審査員として招かれるのだが、やはり本場日本で秋田犬を普及させていきたい、それには今までのカラを破り前進しなければ…
そんな中川氏の秋田犬への情熱を理解し、協力していくメンバーがこれから増えていくことを願わずにはいられない。
(中川畜犬) 06-6681-2436



同じくホープの、眞玉吉と中川氏

に変わる人は少ないですよ」と、惚れこんだこの犬種にその言葉通り秋田犬一筋でやってきた中川氏。
しかし、秋田犬が盛んだった時代から現在まで色々な苦勞があった。海外からたくさん犬種が日本に入ってきて、自然と地味な日本犬の人氣は衰えてくる。
一般に日本犬は、その犬種の保存会のみで活動している事が多いのだが、秋田犬を世界に広げようと93年9月JKCに、現在の交雑種作名譽会長のご尽力もあり、秋田部会を設立。秋田犬の新しい流れを作った。



絶えずおこなわれている、秋田犬の繁殖活動

JITARU NAKAGAWA

2-12-9, Nishi Kagaya, Suminoe-ku, Osaka-city, Osaka 559-0016, Japan

TEL/FAX 06-6681-2436

天然記念物 秋田犬専門
中川 畜犬 店

JKC秋田犬公認審査員
中川 次太郎

〒559-0016
大阪府住之江区西加賀屋2丁目12番9号
TEL/FAX (06) 6681-2436 (店)
TEL (06) 6681-1606 (夜間)



奥様は一番の理解者だ